

【公表】 事業所における自己評価結果

事業所名	児童ルームたちキッズ鳥栖南
------	---------------

公表日

令和6年11月1日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	部屋をパーティションで区切ってコーナー遊びなどを行っている。	トイレが少ない。 利用が増えたと少し狭く感じる。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9			利用者の特性を考えるともう少し職員数多くてもよい
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	4	・朝や帰りの準備、昼食の準備はする場所を固定化している。 ・遊ぶ場所と準備する場所をパーティションで区切り、集中しやすくしている。 ・トイレの前(壁側)に子どもの足の大きさの枠をテープで貼ることで子どもたちが迷わず並べるようにしている。	身体障がいのある人が利用希望をされた場合2階であることで利用が難しいと思う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		視覚刺激が少ないように掲示物は必要最小限にしている。	手洗いの場所が限られており混雑するときもある。普段は使わないが、トイレ内の手洗い場も利用すれば混雑を避けられる。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	完全なる個室はないが、部屋の一角にパーティションを利用する事で、落ち着ける空間を作るようにしている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		スタッフ会議を行っている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	7		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		研修日程を貼りだしたり閲覧できるようにしている。	機会は確保されているが、療育の人員を考えると、複数名での参加は難しい。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		運動・感触・指先知育で担当を決め、内容を考えている。 全体目標を決め、それに向けた計画の作成に努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		曜日、利用者で活動ができるだけ被らないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		体調面や降所時間の都合などで個別活動を行う場合もある。空いている部屋を使用したり、パーティションを利用する。	個別活動に使える部屋に限りがある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		その日のリードのスタッフが細かい指示を出している。療育に必要な道具出しや用具などの準備は協力してスムーズに行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		スタッフ会議を行っている。	個人記録の記入が終わってからになる為、会議を始める時間が遅くなる日もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		各スタッフが意見を言えるように会議の進行を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		半年に一回は面談を実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	送迎の際に園の保育士に園での様子を聞いたりして、よりよい支援ができるよう努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	必要に応じて担当者会議を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		必要に応じて情報提供書を作成したり、移行支援会議を行っている。	学校による。
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	6		
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		9		交流の機会があればと思う。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		おたよりぼすと（連絡帳）に、一日の様子をできるだけ詳細に書いて保護者に伝えている。	記入に時間を要する事も多い。
31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	4	研修会のご案内を玄関に置き、自由に見たり持ち帰りができるようにしている	バス送迎のご家庭の保護者へはなかなか案内が難しい	
	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	34 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9			
	35 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		相談があった場合、直接話す機会をできるだけ設けるようにしている。	
	36 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	保護者交流会を開催し、保護者同士の交流の場を設けている	
	37 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		日時や時間の調整を行い対応している	
	38 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		毎月お便りを発行して月の予定などを知らせている。 予定や持ち物に何らかの変更がある場合、メールなどを使って連絡をしている	
	39 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		鍵のある場所に保管している。	
	40 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	電話の対応時はできるだけゆっくりはっきり聞き取りやすくを心掛けている。	
41 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7		行事予定に地域の方との交流を今後つくってよいのかもしれない。	
非常時の対応	42 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		定期的に訓練を実施している	
	43 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	定期的に訓練を実施している	
	44 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	3	アレルギーに関しては誰でもすぐわかるよう表にして貼りだしている。クッキングの日にアレルギーのある利用者がある場合アレルギー対応のメニューにしている。	予防接種の確認をしていない
	45 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			医師の指示所に関しては把握できていない。
	46 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	47 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		おたよりぼすとやたちGOにて避難訓練等様子を伝えている。	
	48 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		必ず記録に残し回覧し、防止に努めている。	
49 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		毎年必ず研修を行っている。		
50 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	6		児童発達支援計画に記載されていない。身体拘束は今のところ必要ないと思われる。身体拘束をすることがない。	